▶夏期研修会報告（中堅事務職員リトリート、東北・北海道地区教研集会大学部会、関西地区大学部会、大学新任研究集会、全国大学部会研究集会、東北・北海道地区新任教師研修会）〈２～３面〉
▶公募〈２面〉
▶聖書のことば〈３面〉
▶夏期研修会報告（全国事務局長事務長会議、キリスト教活動担当事務職員研修会、全国聖書科研究集会）〈４面〉

キリスト教学校教育 11

２０２４・２０２５年度教研テーマ
新たな時代におけるキリスト教学校の使命と連帯―いのちの輝きと平和を求めて―

（一社）キリスト教学校教育同盟
〒169―0051
東京都新宿区西早稲田２－３－18
日本キリスト教会館72号室
電　話　03（6233）8225
ＦＡＸ　03（6233）8226
理事長　西原　廉太
編集人　田村　浩一
頒価200円（加盟法人の購読料は会費に含まれています）
（毎月１回15日発行）

祈りと信仰によって

指宿　力

第66回学校代表者協議会 11/1（金）～2（土） （学）啓明学院で開催

かつて宗教教育を禁ずる文部省訓令第12号による存続の危機を乗り越えてきたキリスト教学校教育同盟の繋がりは、この時代においても自校が孤立した存在ではないという勇気の源泉であることはもちろん、学び合い、互いに祈り合うことによる励ましを通して、常に建学の精神に立ち返る力を与えてくれるものであります。

このたびはその同盟の学校代表者協議会会場として本校を用いていただくことになりました。こうして私たちの学校を覚えていただけることに感謝すると共に、皆さんの研鑽と交わりが滞りなく行われるよう、会場校として万全を尽くして備えてまいります。

本校は昨年創立100年を迎え、いくつかの記念事業を行いました。その中でも「啓明学院100周年記念館」建築は大きな計画でありましたが、その定礎の際、埋納した聖書に以下のメッセージを理事長と連名で記しました。

「時代を託されるスクールリーダーが祈りと信仰によって常に正しく全体を導き／神と人に仕える生徒を育てる使命を受けた啓明学院として／教職員一同、心を合わせ、神の示す道へと歩みを進める決意を込めて／この聖書を100周年記念館の礎としてここに埋める」

これは時代がどのように変わろうとも、学校を代表する立場にある者は自己の見識や時代的な予測だけでなく、御心を祈りによって求め続け、その信仰によって全体を率いる責任を全うしようとせねばならないという覚悟であり、教職員一人ひとりと共に聖書の教えを土台とした教育を行い続けるという決意を込めて書き示したものです。

キリスト教を建学の精神とする同盟各校においても学校代表の任に当たられる方々の責任は大きなものですし、常に物事を正しく判断することは難しいでしょう。時にそれは心や体に大きな負担を与えることもあるでしょう。しかし祈りと信仰によって神の御心に適う道は必ず開かれることを皆さんと共有し、今日的な課題にも力強く向き合いたいと願います。

本校は2020年より教育プログラムを「理数系に力を入れたリベラルアーツ型教育」へと方向づけ、そのための新しい取り組みも進めています。そうした私学ならではの先取の精神を持ちながらも、御心に適ったこの時代の責任を果たしていくために、祈りつつ歩むこと、一つ一つの決定を信仰的に為すことを常に心に刻む我々でありたいと考えています。その思いもこの機会を通して同盟各校の皆様と共有していくことが出来ればと願っています。どうぞよろしくお願いいたします。

〈啓明学院中学校・高等学校校長〉

キリスト教学校教育懇談会主催 第22回講演会（オンライン開催）

合理的配慮とインクルーシブ教育を考える

～一人ひとりに寄り添うキリスト教学校～

11月30日（土） 13時～16時40分

キリスト教学校教育同盟と日本カトリック学校連合会は、2004年から共同の営みとして「キリスト教学校教育懇談会」を運営し、同会主催で毎年、加盟校教職員を対象に講演会を開催しています。目的は、キリスト教（主義）学校とカトリック学校が共に教育に励み、教育における連帯を目指すことにあります。テーマには、キリスト教教育の目指すもの、大切にすべきものを毎回取り上げて学び合い、交流する機会としてまいりました。

今年の第22回講演会は11月30日（土）13時～16時40分、オンライン開催です。本年4月1日から合理的配慮の提供が義務化されたこともあり、全体のテーマは、「合理的配慮とインクルーシブ教育を考える～一人ひとりに寄り添うキリスト教学校～」としました。

プログラム構成は、全体テーマについての基調講演の後に医療現場と教育現場からの事例報告を各1件設定し、その後、グループでの分かち合い・討議を行います。

チラシ等は加盟学校法人宛に送付済みで、同盟HPのお知らせ欄からもご覧いただけます。参加希望者は、チラシのURLかQRコード、または上記のQRコードから申込みフォームに入り、必要事項を入力してください。

申込みはこちらから

入場無料

《基調講演》
ケアとしてのインクルーシブ
～合理的配慮から対話的包摂へ
ノートルダム清心女子大学
インクルーシブ教育研究センター　教授
﨑川　修 氏

《事例報告Ⅰ》
医療現場からの報告
～子どもに寄り添い共に生きる～
子どもと家族のメンタルクリニックやまねこ 院長
田中　哲 氏

《事例報告Ⅱ》
高校現場からの報告
～合理的配慮・UDL～
YMCA学院高等学校校長・
大阪YMCA国際専門学校校長
鍛治田 千文 氏

申込み締切は 11／12（火） です

キリスト教学校教育懇談会　第22回講演会
合理的配慮とインクルーシブ教育を考える
～ 一人ひとりに寄り添うキリスト教学校 ～
2024年11月30日（土） 13時～16時40分
Zoomによるオンライン開催　入場無料

【基調講演】「ケアとしてのインクルーシブ
～合理的配慮から対話的包摂へ」
﨑川 修 氏（ノートルダム清心女子大学 人間生活学部 教授）

【事例報告Ⅰ】「医療現場からの報告
～子どもに寄り添い共に生きる～」
田中 哲 氏（子どもと家族のメンタルクリニックやまねこ 院長）

【事例報告Ⅱ】「高校現場からの報告
～合理的配慮・UDL～」
鍛治田 千文 氏（YMCA学院高等学校校長・大阪YMCA国際専門学校校長）

＜時程＞
13:00-13:10　開会挨拶 開会祈祷
13:10-14:00　基調講演
14:00-14:30　事例報告Ⅰ（録画配信）
14:30-15:00　事例報告Ⅱ
15:00-15:15　休憩
15:15-16:00　グループ分かち合い（オンライン分科会）
16:00-16:30　全体会・グループ報告
16:30-16:40　閉会挨拶 閉会祈祷

＜申込み＞
定員：先着100名
対象：加盟校教職員、キリスト教教育関係者
申込方法：
参加をご希望の方は下のQRコード または URL から申込み用フォームに入り、必要事項を入力してください。
講演会3日前までに事務局より当日のZoom情報を送信します。
申込み締切は11月12日(火)です。
お申込みURL：https://forms.gle/7wDypxFAUxANGwaAA

主催：キリスト教学校教育懇談会（キリスト教学校教育同盟・日本カトリック学校連合会）
お問合せ：日本カトリック学校連合会　E-mail：rengoukai@catholicschools.jp

2024年 夏の研修会報告

キリスト教学校と少子化を考える

第４回中小規模学校連携協力懇話会

8月23日（金）～24日（土）、第4回中小規模学校連携協力懇話会が横浜市の学校法人横浜学院・横浜女学院中学校高等学校にて開催されました。全国の教育同盟加盟校より、北海道から九州まで20法人28名が対面（オンライン併用）で参加し、有意義な時間を共有しました。

安田理氏

西原廉太教育同盟理事長の挨拶で始まり、23日には、安田教育研究所所長の安田理（おさむ）先生による「キリスト教学校と急激な少子化への対応」という講演が行われ、24日には九州ルーテル学院大学の松本充右（みちあき）学長が「インターナショナルスクール開校、次の100年に向けて種をまく」という演題で講演をしました。

安田理先生の講演では、大きな少子化の波が押し寄せる現代社会において、キリスト教学校がこの問題をどのように乗り越えるべきか、現状の分析から将来的な展望についての示唆がありました。特に首都圏における中学高校の入試の状況や、大学入試での受験生の動向を通じ、キリスト教学校の現状が分析されました。受験生や保護者が学校教育に何を求めているのか、そして今の社会がどのように変わっていくのかという問いに対し、変化の激しい時代に教育内容が十分にアップデートされていない学校に対する指摘もなされました。少子化の状況下で、存在する意味のある学校として、何をしなければならないかを考える貴重な時間をいただくことができました。安田先生の「自分は何者でどう生きたらいいのか」との問いかけは、激しく変化する世の中でキリスト教学校が果たすべき核心的な課題を示しているように思います。

松本充右氏

翌24日、松本充右先生の講演では、九州ルーテル学院インターナショナル小学部の開校に至る背景、「なぜ熊本に」「なぜ小学校を」「なぜ今の時期に」といった疑問に的確な答えが提示され、同学院の決断には大きな勇気と感動をいただきました。松本先生の「すべてに時がある」という言葉には、キリスト教学校が今考えるべきことを学ぶ機会を提供されたと言えます。

教室での分科会

両日ともに講演後に分科会が設けられ、各学校の現状を率直に分かち合い、建設的な意見交換が行われました。この懇話会を通じて、参加者たちはキリスト教学校の使命と役割を改めて再確認し、少子化という大きな課題に対してどのように対応していくべきかについて深く考える機会を得ることができました。特に、教育現場で生徒たちが自分自身と向き合い、悩み、そして成長するための環境を整えることの重要性が強調されました。これからキリスト教学校がどのように歩みを進めるのか、その方向性を考えるための貴重な時間となりました。

分科会報告

平間宏一
〈横浜女学院中学校高等学校校長、中小規模学校連携協力懇話会実行委員〉

加盟校動静

遺愛学院
創基150周年を迎え、9月28日（土）10時から記念式典が中学校高等学校大体育館で開催された。

関東学院
創立140周年を迎え、10月12日（土）14時から記念式典が学院関係者により大学金沢八景キャンパスのベンネットホールで開催された。

平塚敬一氏（元関東学院中学校・高等学校校長、元横浜学院院長、元立教女学院理事長／中学校・高等学校校長）
10月8日逝去、85歳。葬儀、告別式は近親者によって執り行われた。
2007～11年教育同盟の常任理事（教研担当）を務められた。
謹んで哀悼の意を表します。

＜行事予定＞
※予定は状況により変わることがあります。

11／1～2　第66回学校代表者協議会（啓明学院中学校・高等学校）
9　第10回キリスト教看護教育推進会議（活水女子大学）
30　キリスト教学校教育懇談会 第22回講演会（オンライン）
2024年
1／17～18　第67回小学校代表者研修会（北陸学院小学校）
6／13～14　第113回定時総会（北星学園大学）

建学の精神継承のために

第14回中堅事務職員リトリート

職員研修

第14回中堅事務職員リトリートは、同志社大学今出川キャンパスにて、8月22日（木）～23日（金）に開催されました。

本研修の2024年度主題は「新たな時代におけるキリスト教学校の使命と連帯―いのちの輝きと平和を求めて―」、副題は「建学の精神の継承」であり、加盟15法人19名が参加しました。

1日目は同志社大学副学長の木原活信先生による「サーバント・リーダーとは～キリスト教主義学校で働く意義～」と題する主題講演がありました。

聖書より、「人の子は仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのである。」、「あなたがたのうちでいちばん偉い人は、仕える者になりなさい。」という箇所が紹介されました。

「サーバント・リーダーとは、謙虚で腰が低く、オープンで人の話を素直に聞き、丁寧で面倒見が良く、その上決断力がある人。長く生きようと欲するものは奉仕しなければなりません。支配しようとするものは長生きしません。」と木原先生は語りました。

木原活信氏

森田喜基氏

2日目は、同志社大学キリスト教文化センターの森田喜基先生より「キリスト教の教派について～お互いの理解のために～」と題して特別講演がありました。

各学校の創立の礎となるキリスト教各教派の国内外の歴史について、図解を用いて分かりやすく説明くださいました。参加者各自の勤務先である学校の「建学の精神」への理解を深めるとともに、他校のことも理解して自校を再認識でき、キリスト教主義学校が連帯する意義や、私たちがともに目指す教育目標についても、改めて考えるきっかけとなりました。

各講演の後には、3グループに分かれ、講演の感想や意見を交換しました。また、「各校の創立の意図」、「建学の精神」、「自校教育」に関する事前課題をもとに、各学校で実践されている事柄について情報交換し、今後「建学の精神」を継承し活かしていくために、参加者自身が具体的に取り組んでいきたいことについて話し合いがなされました。

「黙想の時」では、同志社大学オルガニストの川崎寿美氏によるパイプオルガンの音色や、同志社グリークラブの皆さんによる合唱に耳を傾け、日常の様々な業務から一旦リセットし、静かに自分を見つめ直す貴重な時間が持たれました。

2日目の最後には、各グループで話し合ったことを発表して全体で共有しました。

この研修会で一旦自分自身を振り返り、参加者相互の学び、気付きが、各学校の児童、生徒、学生、そして教職員との関りの中で実践されていくことを願っています。

会場校の同志社大学、ご準備くださった先生方に心より感謝申し上げます。

〈九州学院事務長、中堅事務職員リトリート実行委員〉　高松和廣

会場はクラーク記念館の教室とチャペル

新しい時代に向けての改革を

東北・北海道地区教育研究集会大学部会

大学研修

2024年度の東北・北海道地区教育研究集会大学部会は、本年度からの新たな主題「新たな時代におけるキリスト教学校の使命と連帯―いのちの輝きと平和を求めて―」のもと、8月22日（木）9時から16時まで、当番校である東北学院大学の五橋キャンパスを会場に加盟校5大学より18名（＋講演のみ聴講者6名）の参加を得て行われました。

当番校の川島堅二氏の司式による開会礼拝の後、地区理事の古川敬康氏（北星学園理事長・学園長）と当番校の原田善教氏（東北学院理事長）より挨拶がありました。

研修では、まず大西晴樹先生（東北学院院長・東北学院大学学長）より「時代の変化に晒されるキリスト教大学」の題で最初の講演を伺いました。特に、文部科学省が進める私立学校法改正により講師が責任を担う東北学院大学の対応の一例として、寄附行為の変更に伴う院長職の再確認を行ったことの経緯や、その中で改めて東北学院の創設者たちの教育理念について考察した点などが示され、そして2023年度に発足した「東北学院キリスト教フェローシップ（Tohoku Gakuin Christian Fellowship 略称：TGCF）」の学生たちの課外活動の様子を紹介し、新しい時代における東北学院のキリスト教の「リバイバル（信仰大覚醒）」となる期待を話されました。

大西晴樹氏

次に、嶋田順好先生（横浜英和学院理事長）より「少子化時代における持続可能な道を求めて」の題で講演がありました。急速に進む日本の少子化の中、地方のキリスト教学校が直面する課題に言及し、かつて宮城学院女子高等学校の校長として御自身が取り組んだ実例に触れ、海外から日本語を学び、日本語で教育を受け、日本での就職を希望する留学生を高校生から積極的に迎え入れる意義についての話でした。

嶋田順好氏

懇親会（昼食）では参加各校から近況報告を伺い、午後は参加者が三つの分団に分かれ、講師を交えて質疑や意見交換が行われました。その後の全体会では各分団の討議内容が報告され、講師らの総評を聞きました。最後に、次年度の当番校を代表し、小林昭博氏（酪農学園大学宗教主任）による閉会礼拝の後、地区代表理事で、今回の講師も務められた大西晴樹氏による挨拶をもって本年度の研究集会は締め括られました。

加盟校が少ない地区でありながら、集会に出席する校数も減少しており、研究集会のあり方を含め「新しい時代」に向けた改革が求められることを感じた研究集会となりました。

〈東北学院大学宗教部長・教育同盟教育研究委員会全国委員〉　原田浩司

AI時代のキリスト教教育の可能性

関西地区第65回大学部会研究集会

大学研修

8月26日（月）～27日（火）、主題「新たな時代におけるキリスト教学校の使命と連帯」のもと、大阪キリスト教短期大学で関西地区大学部会研究集会が開催される予定でしたが、台風10号の接近に伴い27日は中止、26日も時間を短縮しての開催となりました。

26日14時に開始され、開会礼拝では関西地区大学部会・落合建仁委員長（金城学院大学）の司式、説教により恵み豊かな時を共有することができました。説教は自身の経験を踏まえながら講演会のテーマとも結びついた聖書の話で、続く講演会をより期待させるものとなりました。

小原克博氏

講演会は「AI時代のキリスト教教育の可能性」と題して、同志社大学学長・神学部教授である小原克博先生から教えられ、収穫の多い学びの時となりました。参加者の多くはAI時代に戸惑いながらも実際に大学の現場で学生たちにどのような教育実践が可能なのか試行錯誤しながら働きに従事する中、小原先生から示された教育と実践方法に新しい視点が与えられました。

小原先生は、近代日本の教育が実利主義に傾く一方でキリスト教学校の存在意義や役割、課題が何かをわかりやすく説明しました。AI技術が進むと知性、知能が必要となり理性や合理性が求められるが、そこからこぼれ落ちているものは何か、それをしっかりと受け止めるキリスト教教育の意義を強調しながら、最適化がもたらした負の歴史を直視し、人間の限界、弱さ、愚かさを自覚して、視野狭窄に陥らないよう気をつけなければならないと語りました。

また、予測しなかった出来事や人物、自然との出会いを通して自分の中に眠っていたものが引き出され豊かな人生へと導かれること、キリスト教育が目標とする人格形成が行われることを熱く語りました。ただここで私たちはAIを排除するのではなく、人間が関わりきれない部分はAIが担うことで教職員が無理することなく、学生たちが豊かな人生を歩むことができるだろうと述べました。その後、質疑応答の時間には3名からの質問があり、どの質問に対しても誠実に答えられました。

講演会司会を担当された打樋啓史実行委員（関西学院大学）のコメント及び落合委員長の挨拶をもって講演会が終了し、情報交換会では27日に予定していた分団会のグループに分かれて着座し、良き交流の時を過ごしました。

〈名古屋学院大学宗教部長、関西地区大学部会実行委員〉　神山美奈子

公募

※採用予定日は特記以外25年4月1日です。

▽北星学園大学
▼経済学部経済学科
職種＝西洋経済史　専任講師又は准教授　1名
応募締切＝12月16日
問合せ＝☎011-891-2731

▽聖学院大学
▼心理福祉学部心理福祉学科
職種＝精神保健福祉学分野　教授又は准教授　1名
応募締切＝11月15日
問合せ＝s_nakatani@seigakuin-univ.ac.jp

▼基礎総合教育部
職種＝データサイエンス関連分野　教授、准教授又は助教　1名
応募締切＝11月15日
問合せ＝ky_okamura@seigakuin-univ.ac.jp

▽神戸女学院大学
▼共通英語教育研究センター
職種＝英語教育　教授、准教授又は専任講師　1名
応募締切＝11月15日
問合せ＝☎0798-51-8553

▽活水女子大学
▼看護学部看護学科
職種＝基礎看護学、母性看護学　准教授、講師又は助教　各1名
応募締切＝12月28日
問合せ＝☎0957-27-3005

▽遺愛女子中学校・高等学校
職種＝情報科、国語科、保健体育科　専任教諭　各1名
応募締切＝11月30日
問合せ＝☎0138-51-0418

▽宮城学院中学校高等学校
職種＝国語科　専任教員　1名
応募締切＝11月8日
問合せ＝☎022-279-1331

▽青山学院中等部
職種＝音楽科　特別教諭　1名
応募締切＝11月14日
問合せ＝skunimi@aoyamagakuin.jp

▽恵泉女学園中学・高等学校
職種＝英語科　嘱託教員　1名
応募締切＝11月18日
問合せ＝☎03-3303-2115

▽香蘭女学校中等科・高等科
職種＝社会科　非常勤講師　1名
応募締切＝11月27日
問合せ＝☎03-3786-1136

▽明治学院中学校・東村山高等学校
職種＝①数学科②国語科③理科④保健体育科①常勤講師②③④非常勤講師　①③④各1名②2名
応募締切＝①④12月5日※11／11受付開始②25年1月9日③25年1月16日※12／2受付開始
問合せ＝☎042-391-2142

▽聖学院中学校・高等学校
職種＝①技術科　特任教諭②技術科非常勤講師③美術科　非常勤講師　各1名
応募締切＝①②11月21日③12月7日
問合せ＝☎03-3917-1121

▽立教女学院小学校
職種＝学級担任又は算数専科　常勤講師及び産休・育休代替常勤講師　若干名
応募締切＝11月20日
問合せ＝☎03-3247-0905

▽北陸学院小学校
職種＝担当科目は相談　非常勤講師　1名
応募締切＝11月29日
問合せ＝☎076-280-3858

▽普連土学園中学校・高等学校
職種＝常勤職員　1名
応募締切＝11月8日
問合せ＝☎03-3451-4616

キリスト教大学が大切にすること

第11回 大学新任教員研修会　大学研修

8月30日（金）「キリスト教大学とは」を主題とし、大学新任教員研修会がZoomを用いたオンラインで開催されました。山下智子委員長（同志社女子大学）による開会の挨拶と祈りをもって13時に開始した後、西原廉太教育同盟理事長（立教大学総長）を講師とし、「キリスト教大学が大切にすること」と題する講演が行われました。

講演は、建学の精神、Via Media理解、理性と伝統、キリスト教大学のルーツとミッション、聖書、多様な一人ひとりの存在を大切にすることなどを論点とし、1時間あまりの熱の籠もった話に触発を受ける機会となりました。

報告者個人として特に印象に残ったのは、キリスト大学の建学の精神はそれぞれの個性はあるものの、真理探究と世界・社会・隣人に奉仕するという二つの軸がある点で共通するという話でした。同じ目標を異なるアプローチで目指す、今回のようなキリスト教大学の集まりの大切さを改めて実感させられました。

また大学のルーツとミッションの話では、大学が三種の聖職者を育てる場として始まったことが語られました。精神的・霊的な痛みのために神学部、身体的・肉体的な痛みに医学部、社会的な痛みに法学部が設けられたことからは、複雑化する現代でも変わらないキリスト教大学の役割を教えられました。

講演後、実行委員5名が司会者となり、5つのグループに分かれて討議を行いました。講演から刺激を多く受けたこともあってか、50分の時間が足りないと感じるほど各グループで充実したやりとりが行われました。

グループ討議後は東彩子委員（西南女学院大学）の司会のもとで、講師を交えての全体会を持ちました。こちらも30分ほどの時間が短く感じられるような活発な議論が交わされました。

松本周委員（宮城学院女子大学）による閉会の祈りを持ち、16時過ぎに閉会。参加者それぞれが課題を発見し、疑問を解消するような機会として、成功裏に第11回大学新任教員研修会終えることができました。

当日は各地に大きな被害を与えた台風10号による停電や交通への影響など、オンラインの研修会であっても開催が危ぶまれる面がありました。その意味ではオンライン開催も万全ではないことを知りました。また参加者から対面での開催を期待する声もあり、開催形態については今後さまざまな可能性を検討する余地がありそうです。

〈明治学院大学、大学新任教員研修会実行委員〉　植木献

講演　西原廉太氏

司会　山下智子氏

AI時代の大学教育とキリスト教

第68回全国大学部会研究集会　大学研修

大学部会は、関東地区委員会主催で、9月9日（月）13時30分より、全国研究集会をオンラインの形で開催しました。（参加者13法人14名）。

下田尾治朗委員長（敬和学園大学）の挨拶の後、開会礼拝では、五十嵐成見・関東地区委員（東京女子大学）により、コリントの信徒の手紙二4章8～10節の聖句に基づく説教がありました。

引き続く基調講演においては、シュー土戸 ポール先生（青山学院・文学部教授・学院宣教師）を講師にお迎えし、「AI時代の大学教育とキリスト教」とのテーマのもと、圧倒的な影響力をもって現代社会に浸透するAIに大学はいかに向き合うべきかに関する示唆に富むお話を聞くことができました。

土戸氏は、生成AIは16世紀のグーテンベルク印刷術の登場以来の教育システムの変革の流れの中の最先端に位置付けられるものであること、生成AIの影響を教育界は不可避なものと受け止めつつ、そのリスクと限界を認識したうえで、教育と研究のための善用に努めるべきことを明言しました。

実際に、カリキュラム開発、シラバス作成等において、生成AIは、教育の強い味方として用いることが可能であり、学習に際しても、解答を求めての丸投げツールとしてではなく、対話の相手としての利用を促すことを通して、学生たちの思考を深めることができるとのこと。そのためにも教育に携わる者一人ひとりが、生成AIの利用に習熟する必要性を土戸氏は強調します。

このように、生成AIを教育に取り入れることの不可避性とメリットに言及する一方で、その弱点と限界について、また、それらを克服するところのキリスト教教育の可能性について、土戸氏は講演の締めくくりとして語りました。生成AIが苦手とする領域は、倫理的判断、共観能力、思いやりに基づくコミュニティー形成能力であり、このことを可能とする営みこそがキリスト教に基づく全人教育であることを師は明らかにしました。時代の激しい変化に柔軟に対応しつつ、変わることのない聖書的人間観に立ち続けることこそ、キリスト教教育の目指すべき方向性であることを改めて心に刻むことがゆるされました。

講演後は、質疑応答の時間となり、参加者各々の関心や専門に基づき、活発なやりとりが繰り広げられました。

〈敬和学園大学、大学部会研究集会実行委員長〉　下田尾治朗

青山学院大学から配信

シュー土戸 ポール氏

キリスト教学校で働くことの使命

第8回東北・北海道地区新任教師研修会　新任研修

9月11日（水）、東北・北海道地区第9回新任教師研修会が、酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校を会場に開催されました。5法人6校、19名の参加でした。

研修会に先立って学校礼拝に参加、東北学院榴ケ岡高等学校の西間木順宗教主任の説教に生徒と共に耳を傾けました。

研修会は朴美愛酪農学園宗教主事による開会礼拝、当番校の石川和哉校長による挨拶で始まりました。

その後、学校法人野幌キリスト教学園理事長の村山昭二先生（元とわの森三愛高校長）の講演「キリスト教学校で働くことの使命」を聞きました。村山先生はキリスト教学校に務めた経験から、神と教会から遣わされた者としての思いを語りました。また、教育同盟各校の建学の精神に触れ、キリスト教教育の根幹が人格教育であり、その為に継承すべきことと、新たな時代の取り組みをすることで、20年、30年後を生きる生徒の羅針盤となるキリスト教教育が実践されることの必要性を強調しました。あわせて私学人としての独立と協働、サーバントリーダーシップの重要性を説きました。さらに、パウロの獄中書簡を引用して、厳しい時代を乗り越えることと、キリスト教との出会いが人生に接ぎ木されたことの意味と、聖書の言葉の真実さとの出会いのすべてが生徒にも教員にも人生の訓練となると語りました。その後の分団協議では、講演内容や種々のテーマで情報共有と意見交換がなされました。

昼食後、酪農学園見学ツアーを行い、広大なフィールドを巡りました。創設者・黒澤酉蔵の生涯と学園史の展示資料室と記念講堂（大学礼拝堂）にも立ち寄りました。バスでも1時間では足りない施設と農地、近隣の自然、江別から札幌までの眺望に驚きの声が聞かれました。

ティータイムには、生徒が実習で作ったケーキの他、酪農学園の乳製品、北海道銘菓を味わいつつ交流し、その雰囲気のままに分団協議報告を行いました。各班から学校礼拝の大切さ、礼拝方法や生徒を含む奉仕者の活動の違い、学校の特色などが披露され、まとめの時となりました。最後に当番校の久保木崇による閉会礼拝と教研全国委員である西間木氏の派遣祈祷をもって、神の恵みの内に研修会を終えました。

キリスト教学校の教員として、共通の使命と個別の取り組みを再認識し、神様から預かる生徒の成長のために、思いを新たにする研修会となりました。

〈とわの森三愛高等学校、教研全国委員〉　久保木崇

見学ツアー・黒澤記念講堂前で

村山昭二氏

分団協議

聖書のことば

恐れることはない、わたしはあなたと共にいる神

石黒　義信

「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」（マルコによる福音書15章34節）

この聖句は、ナザレのイエスが「神の愛と無条件の赦し」を宣べ伝えたその最期に、十字架上での断末魔の苦しみの中での絶叫の言葉です。「神はその時、どこにおられたのか」、「神は本当にイエスを見捨てられたのだろうか」、と多くの人たちは思いました。

今日、困難で悲惨な出来事や自然災害等で多くの人たちが傷つき、亡くなっているのにもかかわらず、もし神がおられるなら、なぜ、そのことが起こる前に止めてくださらないのか、地震や台風等の災害が起こらないようにしてくださらないのか、と思います。

ところで、聖書は私たちに「いのち」を与えてくださった方を「神」と語ります。「いのち」が与えられているということは、「誰にも束縛されず、自らの意思で自由に生きても良い」と言うことです。それはまた同時に私たちがどの様な状況に置かれたとしても、自らの決断によって生き抜いていかなければならないことをも意味します。つまり神は私たちが下すどのような決断をも受け入れてくださり、それがどのような結果になったとしても、常に「それでいいよ、そのように生きていって良いよ」と認めてくださっているのです。

イエスの十字架上の刑死の出来事がそのことを唯一示しています。「十字架につけられたままのイエス」を神は「然り、それで良いのだ、そのままのあなたを私は受け容れているのだ」、「私はあなたと伴にいるのだ」と語られているのです。つまり、神は「殺されていったイエスと伴におられる」方なのです。

それ故、私たちの歩みにおいて、思いや願いが実現しない時、努力が報われない時、失敗したと思う時、困難に直面する時…があったとしても失望落胆せず、そのところから自らの決断によってそれぞれの道を歩んでいっていいのです。「いのち」を与えてくださった神が常にあなたと伴にいてくださるのです。

〈学校法人聖書学園 千葉英和高等学校チャプレン〉

危機管理と災害対策
寄附行為改正後の体制と運用

第10回全国事務局長・事務長会議

職員研修

第10回全国事務局長・事務長会議が、同志社大学今出川キャンパスを会場として、38法人49名の参加を得て９月６日（金）～７日（土）の２日間開催されました。

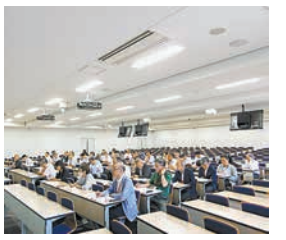
本会議は、キリスト教学校が建学の精神を具現するため、事務局トップが問題意識を持って現状と課題を捉えながら、他校の先行事例に学び、自校での新たな試みにつなげて取り組んでいくこと、事務局長・事務長の全国的なネットワークを築くことを目的としています。

今回は、主題を「災害危機とキリスト教学校の連帯」とし、事務局長・事務長の立場で災害時の危機管理について共に考え、防災に対する意識を高め、災害時の学校間の連携を図っていくこと、および、喫緊の課題である私立学校法改正に伴う寄附行為改正や関連規程の整備における体制づくりやその運用などについて、事例発表と情報交換を行うことを目的としました。

立木茂雄氏

発表Ⅰ・星野薫氏

発表Ⅱ・祖父江健一氏



初日は、星野薫実行委員長（フェリス女学院）による開会礼拝、小﨑眞学校法人同志社常務理事・同志社女子大学長による会場校挨拶に続いて、基調講演として大災害からの長期的な生活復興過程の解明や、災害時の要配慮者支援のあり方など、社会現象としての災害に対する防災学を研究されている立木茂雄先生（同志社大学社会学部教授）から「災害危機とキリスト教学校の連帯」と題して講演を聞きました。

続いて、「寄附行為改正後のガバナンス体制とその運用」と題して、星野氏（フェリス女学院事務局長）から大臣所轄法人としての事例、祖父江健一氏（女子学院事務長）から知事所轄法人としての事例発表があったのち、講演・事例発表を受けて、参加者が５グループに分かれて「危機管理と災害対策について」と「寄付行為改正後の体制と運用について」をテーマに活発な討議・情報交換を行いました。その後、同志社大学学生の案内によるキャンパスツアーが行われ、施設見学を行いました。夕暮れのレンガ造りの重要文化財は特に美しく、来年１５０周年を迎える同志社のキリスト教教育の歴史を実感しました。

夕刻からは夕食を兼ねた情報交換会が東山を一望する学内レストランで開催され、講師にも参加いただき、相互の交流と親睦を深めることができました。

２日目は、宇田川篤実行委員（恵泉女学園事務局長）による朝礼拝に始まり、前日に続いて討議・情報交換を行いました。続いて行われた全体会では、２日にわたるグループ討議内容がそれぞれのグループから報告され、参加者全員で討議の内容を共有することができました。

最後になりましたが、ご多忙の中、事前準備や当日の会場運営等、多大なるご協力とご支援を賜りました同志社の皆さまに厚く御礼申し上げます。

和田敏也

〈広島女学院経営企画部長、全国事務局長・事務長会議実行委員〉

学生ガイドによるキャンパスツアー

キリスト教活動活性化を目指して

第４回キリスト教活動担当事務職員研修会

職員研修

第４回キリスト教活動担当事務職員研修会が、「キリスト教って何？～キリスト教学校で大切にしたいこととは何か～」を主題に、９月11日（水）～12日（木）の二日間、福岡市の西南学院大学を会場として、11法人19名の参加を得て開催されました。

西南学院大学チャペル

プログラムは「開会礼拝」からスタートし、劉雯竹先生（西南学院大学宗教主事）が、「分け合おう、わずかのパンと魚」と題して、マルコによる福音書８章14～21節より、他者のためにちいさな愛を差し出す心を育てるのがキリスト教学校であるとのメッセージを語りました。

「講演１」では、濱野道雄先生（西南学院大学宗教部長・神学部教授）から「生徒・学生の物語と聖書の物語の出会い―キリスト教学校で大切にしたいこと―」をテーマに、キリスト教学校を形作る建学の精神には、教職員各々による解釈の幅や今の時代における解釈があっても良く、また、生徒・学生の人生の物語が聖書の物語と出会い、そして合流していくための環境づくりこそがキリスト教学校で大切にしたいこと、と示されました。

濱野道雄氏

続く「グループワーク」では、参加者は５つのグループに分かれて、講演の感想、業務における課題や悩み、対応策などを中心に活発な意見交換を行い、その後、キャンパス外に場所を移して開催した「情報交換会」では、緊張もほぐれ、ざっくばらんに語り合い、この日のプログラムを終えました。

研修二日目。まずは廣瀬真理香実行委員（明治学院大学宗教部職員）の司会による「朝の集い」で、ローマの信徒への手紙12章１～21節の交読、そして黙想を行い、心を整えるひとときを持ちました。

「講演２」では、「実際の取り組みについて―アンケートを基に―」と題して、事前アンケートで寄せられた「教職員のキリスト教への理解・浸透のためにどのような取組みを行っているか」などの質問に対し、濱野先生から西南学院大学での事例をお話しいただき、「グループワーク」では各校のキリスト教活動をめぐる厳しい現状や打開策の共有へと展開していきました。

最後に「全体会」でのワーク内容報告は、二日間の活発な意見交換を反映した濃い内容となり、やや時間を超過しましたが、濱野先生の閉会祈祷をもって、研修会は無事終了しました。

本研修会は、宗教活動担当事務職員が、課題共有や情報交換を通じ、キリスト教活動の一層の活性化を模索、キリスト教学校教育の理念の明確化を目指し、同労者として励まし合うことを目標としており、研修会後のアンケートでも、「キリスト教活動担当職員のための唯一の研修であり、とても大切な交わりの時です」などの感想が寄せられました。引き続き、皆様の積極的なご参加をお待ちしています。

竹森宏和

〈同志社大学同志社社史資料センター職員、キリスト教活動担当事務職員研修会実行委員長〉

グループワーク

ミナト神戸の宗教とコミュニティー

第57回全国聖書科研究集会

第57回全国聖書科研究集会は、「ミナト神戸の宗教とコミュニティー」というテーマを掲げて神戸市須磨区の啓明学院中学校・高等学校を会場校に開催されました。９月13日（金）～14日（土）の日程で26法人47名の参加者が集った研修会の初日は、会場校の啓明学院中高のチャペルで「啓明学院のキリスト教教育」（小嵜智通宗教主事）について聞き、聖書科授業の見学と校舎見学の後に主題講演（神田健次氏・関西学院大学名誉教授）から学びました。

神田健次氏

主題講演からは、多様な宗教のコミュニティーが共存・協働してきた歴史を持つ神戸の歴史の奥深さを知る中で、勤務校で聖書科授業・礼拝への責任を持つ私たちが、まず多様性と違いへの理解と想像力に開かれることの大切さを教わりました。その後、生徒有志による生徒によるオルガン演奏を交えたチャペルコンサートが企画され、夕食は神戸飯店に移動して、１９９５年の阪神淡路大震災の被災体験を林攸樹（リュウジュ）社長から伺い、参加者の交流と親睦のときを持ちました。

二日目は神戸栄光教会での礼拝に始まり、午前中のフィールドワークでは神田先生の講演を通して学んだ内容を、市内の北野地区を散策しながら確認する研修のときを持ちました。厳しい暑さの中でしたが、神戸モスク、ジャイナ教寺院、カトリック教会、バプテスト教会、ハリストス正教会、インド会館、神戸ユダヤ共同体跡地などの宗教的多様性に満ちたエリアを散策し、訪問して話を聞く中で、耳目で学んだ情報・事柄を実際に歩きながら確認して回ることができました。特に、神戸モスクでは、日本人イマーム（導師）に就任した方のお話を直接聞けたことは大変に有意義な出会いでした。その後、イエス団賀川記念館に移動し、小野歩氏から賀川豊彦の足跡と記念館の働きについて聞き、記念館の見学と閉会礼拝のときを持ち、一泊二日の研修会を閉じました。

膨大なデータ・資料に瞬時にアクセスできる便利な時代ですが、反面では個人の関心と傾向によって限定されがちな情報だけで判断し、偏った価値形成をしてしまうリスクに満ちた現代社会です。その中で、キリスト教学校が持つ使命とは何でしょうか。参加した各校の聖書科教員一人ひとりは、神戸という港町が歴史の中で異なる人たちに開かれ、集い、違いから互いに学び合い、聞き合ってきた営みを知る中で、これからの時代におけるキリスト教学校が大切にしたいテーマを考える貴重な機会を得ました。豊かな研修と出会いのときへの感謝と共に、研修会の報告といたします。

三上　梓

〈西南学院中学校高等学校宗教主任・聖書科教諭〉

フィールドワークの風景

神戸ムスリムモスク

ジャイナ教寺院

ハリストス正教会

賀川記念館

事務局だより

季節が移り空は高く、事務局から東に望むスカイツリーが近く見えます。今号は夏の研修会10本の報告、テーマはＡＩ時代、私学法、災害対策、少子化、そしてキリスト教学校の使命と存在など喫緊の課題。報告を皆様と共有します。

事務局が同行した研修で印象深いのは聖書科の神戸北野地区フィールドワーク（４面）。異人館街の多様な宗教施設の共存、特にその中のユダヤ人共同体の跡地（高さ２ｍ、長さ20ｍの石壁）は杉原千畝の「命のビザ」で来日、数カ月滞在して市民とも交流した人々の痕跡、貴重な歴史の記憶です。

事務局長